

しゅぶと  
朱太川水系河川整備基本方針

平成 30 年 3 月

北 海 道

# 朱太川水系河川整備基本方針

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量 に関する事項	7
(参考図) 朱太川水系流域概要図	8

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域及び河川の概要

朱太川は、北海道<sup>すつつ</sup>寿都郡<sup>くろまつない</sup>黒松内町と<sup>あぶた</sup>虻田郡<sup>とようら</sup>豊浦町の境にある<sup>かなやま</sup>金山（標高501m）にその源を発し、寿都湾と内浦湾を結ぶ<sup>おしま</sup>渡島半島の基部となる黒松内低地帯を、黒松内町市街地を貫流後、黒松内川、<sup>ねっぶ</sup>熱帯川などの支川と合流しながら北流し、日本海に注ぐ、流域面積361.7km<sup>2</sup>、幹川流路延長43.5kmの二級河川である。河川名の由来は、アイヌ語のシュッキ・プトに由来し「shupki-putu 寿都川の・河口」の意と言われており、河口に<sup>よし</sup>葭（shup-ki シュッキ）が多かったことから、朱太川はスツツ川（寿都川）とも呼ばれていた。

流域は、北海道の西部に位置し、寿都郡寿都町、黒松内町の2町で構成されており、土地利用は約83%が山地で占められているが、河川沿いは農地として利用されており、中流域には黒松内町の市街地が形成されている。

寿都町は、寿都湾の豊かな資源の恩恵を受ける港町で、朱太川から栄養豊富な春の雪解け水が寿都湾へ流れ、その栄養を蓄えた「<sup>ことぶき</sup>寿かき」は町の名産となっている。また、ブナ北限の里として知られる黒松内町は、国の天然記念物に指定されている「<sup>うたさい</sup>歌才ブナ自生北限地帯」と農村特有の牧歌風景を活かして、人と自然が共生する都市と農村の交流型地域づくりに取り組んでおり、さらに、平成24年3月には黒松内町生物多様性地域戦略を策定し、ブナ林や朱太川などの豊かな自然を損なうことなく、将来世代に引き継ぐ取組を進めている。この取組を契機として、治水と生物多様性保全が両立する川づくり手法について、多様な視点から意見を集約するため、平成24年2月に各分野の専門家で開催される「朱太川川づくり検討委員会」を設立し、4回の委員会を経て、平成27年4月に朱太川の目標像や治水対策の進め方について提言を受けている。

また、朱太川には多数の魚類が生息し、アユ、サクラマス（ヤマメ）などが確認されているほか、河床にはカワシンジュガイが多く生息している。鳥類ではブナ林などでクマガラなどの姿が見られる。

さらに、流域内には、JR函館本線、<sup>どうおう</sup>道央自動車道、国道5号、国道229号などの重要施設が整備されている。

このようなことから、本水系は道央地方における治水・利水・環境上、重要な水系に位置付けられている。

流域の地形は、主に小起伏山地、大起伏丘陵地が占め、沿川の地形は主に扇状地性低地となっているが、河口付近には三角州性低地が形成されている。

流域の地質は、上流域は新生代新第三紀の瀬棚層である砂岩、シルト岩など、中流域から下流域にかけて新生代第四紀の旧期扇状地堆積物である礫、砂などが広く分布しており、河川沿いは新生代第四紀の現河床・海浜堆積物である礫、砂などが分布している。

流域の気候は、対馬暖流の影響を受けて比較的温暖であるが、河口部の寿都町と比較すると、内陸に位置する黒松内町は冷涼で積雪が多い。流域内の黒松内観測所における年平均降水量は、約1,500mm（昭和56年から平成22年までの平均値）と北海道の平均降水量と比較して多くなっており、年平均気温は約8℃と北海道の平均気温と同程度である。

上流域は、エゾイタヤミズナラ群落、チシマザサブナ群団内の群集が分布し、河川沿いは一部農地として利用されている。河畔林は斜面から連続するエゾイタヤミズナラ群落で形成されており、森林性鳥類のコルリや河川周辺に生息するカワガラスなどが見られる。また、歌才川の合流点近くには歌オブナ自生北限地帯が広がり、国の天然記念物に指定されているクマゲラが確認されている。

河床勾配は約1/200～1/60以上で、河床は主に礫で構成されている。蛇行が繰り返され、瀬や淵にはサクラマス（ヤマメ）、スナヤツメ北方種などが生息し、河床にはカワシンジュガイが見られる。また、河口から約30km地点に位置する朱太川橋付近でアユが遡上する姿が見られ、平瀬ではアユ、サクラマス（ヤマメ）などの産卵床も確認されている。

中流域は、農地として広く利用されており、黒松内町の市街地を貫流している。河畔林は主にヤナギ類、ミズナラで形成されており、アオジ、カワラヒワ、ウグイス、ヒヨドリなど、河川沿いの低木や周辺の樹林に生息する鳥類が見られる。

河床勾配は約1/600～1/500で、河床は主に中礫で構成されている。瀬や淵にはアユ、サクラマス（ヤマメ）などが生息し、水際に堆積する砂泥にはヤツメ類が見られる。河床にはカワシンジュガイが多く生息しているほか、アユ、サケ、サクラマス（ヤマメ）、スナヤツメ北方種などの産卵床が多く確認されている。

下流域は、主に農地として利用されており、寿都町湯別地区の家屋が点在している。河口から約3kmの区間は昭和20年代後半に行われた改修工事により、直線化した

河道となっている。河畔林は主にヤナギ類で形成されており、鳥類では、アオジ、カワラヒワなどのほか、橋梁に営巣するイワツバメの姿が見られる。

河床勾配は約1/1,800～1/900で、河床は主に中礫で構成されているが、河口付近では砂や細礫も見られる。アユ、サクラマス（ヤマメ）などが生息し、アユ、サケ、サクラマス（ヤマメ）、スナヤツメ北方種などの産卵床が確認されている。また、河口から約3kmの感潮区間では、エゾウグイ、イトヨ、シマウキゴリなどが確認されている。

朱太川水系における治水については、昭和25年の出水を契機として、昭和28年から33年にかけて河口から約4kmの区間で改修工事が行われ、その後も昭和36年、37年に連続して豪雨による被害が発生したことから、昭和40年から54年にかけて<sup>しろずみ</sup>白炭川合流点から熱郭川合流点までの約3kmの区間で改修工事が行われた。しかし、整備水準が低く、昭和50年8月の台風5号および6号により浸水家屋420戸の被害が発生したことから、昭和52年より河口から約9kmの区間で改修工事を行っている。その後も平成11年8月の豪雨により浸水面積約20haの被害が発生していることから、治水安全度の早期向上が課題となっている。また、支川においても<sup>なかのがわ</sup>中の川では昭和40年9月の豪雨により昭和43年にかけて一定計画による災害復旧工事が行われ、<sup>そいべつ</sup>添別川では昭和45年から51年にかけて約1kmの区間、<sup>しりべしらいぼ</sup>後志来馬川では昭和56年から63年にかけて約3kmの区間で改修工事が行われている。

なお、本水系は過去において、高潮による被害は発生していない。

水質については、「公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準」による類型指定はされていないが、平成23年から25年の調査結果によると、河口から約21km区間の5地点におけるBOD値の平均は2mg/l以下で概ねA類型に相当する良好な水質となっている。

河川水の利用については、農業用水として約198haの水田、畑に利用されているほか、黒松内町の流雪溝用水に利用されている。また、後志管内のサケ・マス増殖河川に位置付けられており、サケ、サクラマス（ヤマメ）の稚魚放流が行われている。河川空間の利用については、魚釣り、カヌーのほか、環境学習のフィールドとして利用されており、また、支川の熱郭川の川沿いがフットパスのコースの一部として利用されている。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、水害の発生状況、治水の現状、河川の利用状況、周辺の土地利用状況及び河川環境の保全を考慮し、周辺地域の社会・経済情勢との調和や既存の利水施設等の機能の維持に十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図る。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、朱太川流域が持つ社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ、河道の掘削により河積を増大させ、計画規模の洪水の安全な流下を図り、沿川地域の家屋や農地等を防御する。その際、河川環境の変化等についてモニタリングを行うとともに、その結果を検証しながら、多様な動植物が生息・生育・繁殖できる良好な河川環境の保全・創出に努める。

計画規模を上回るような洪水や整備途中の段階における施設能力以上の洪水に対しては、迅速な対応が可能となるよう、水防管理者等に対し河川情報等の確実な伝達やハザードマップ作成のための支援を行い、関係機関や住民と連携を図りながら洪水被害の軽減に努める。

また、河川周辺の土地利用状況等を踏まえ、防災等関係機関と連携を図りながら、必要に応じて、情報連絡体制等の検討や施設整備等を行い、地震・津波・高潮被害の軽減に努める。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、農業用水及び流雪溝用水として利用されている現状を踏まえ、利水者等の関係機関との情報交換など連携を図りながら、適正かつ合理的な利用が図られるよう努める。また、水量・水質の把握に努め、魚類等の生息する良好な水環境の保全が図られるように努める。

河川環境の整備と保全に関しては、サケ、サクラマス（ヤマメ）、スナヤツメ北方種等の魚類やカワシンジュガイ等が生息していることから、河道の連続性の確保や瀬・淵等の生息環境の保全に努める。また、魚類や鳥類などの動物にとって貴重な生息環境である河畔林についても極力保全に努めるなど、現在の豊かな水辺環境を踏まえ、水際から陸域までの横断的な連続性に配慮し、治水面との整合を図りつつ、動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全に努めるものとする。なお、在来の生態系への影響が懸念される外来種については、関係機関と連携し、必要に応じて対策に努める。

景観に関しては、流域の自然特性や社会特性等を踏まえ、周辺に広がるのどかで牧歌的な風景と河川とが総合的に融合・調和するよう親しみやすい川づくりに努める。なお、施設の整備にあたっては、時間の経過を考慮して、周辺の景観になじむよう配置、形態・材料・色彩等の選定を行い、その後のモニタリング調査に努める。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等の総合的な観点から、必要な措置を講ずるなど、適切な実施に努める。なお、実施にあたっては、平常時及び洪水時における巡視、点検を行い、河川管理施設及び河道の状態を把握するとともに、周辺の土地利用状況を踏まえ、治水としての機能や環境への影響を考慮したうえで、河道内の樹木、堆積土砂や河川管理施設の適正な管理を行う。

また、地域と一体となった河川管理の構築に向けて、河川に関する情報を社会を構成する多様な主体と双方向で共有し、各々の適切な役割分担のもと、より一層の連携・協働の取組を実施するとともに、環境教育への支援、河川愛護活動の推進に努める。

なお、以上の実施にあたっては、各分野の専門家や流域住民等の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努める。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

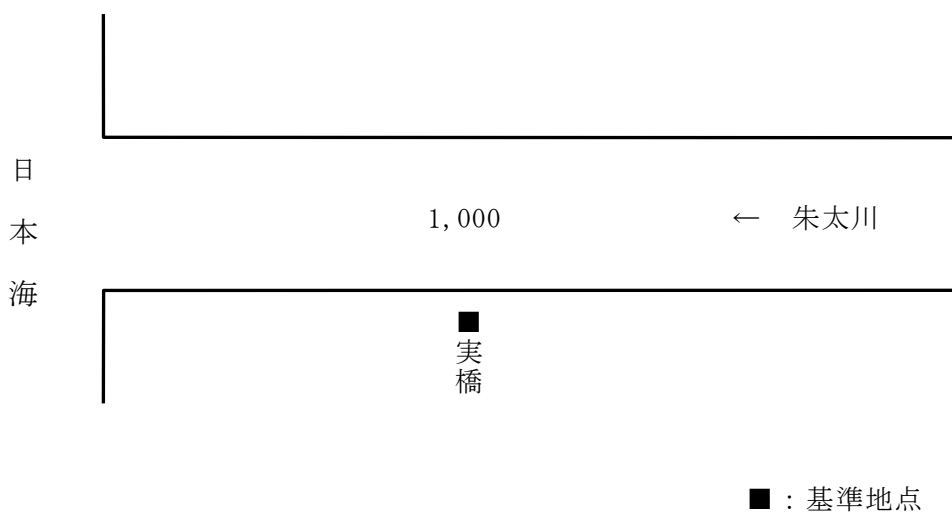
基本高水のピーク流量は、流域の規模や社会的経済的重要性、既往洪水等を考慮して、実橋基準地点において $1,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、全量を河道に配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	洪水調節施設による調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
朱太川	実橋	1,000	—	1,000

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、実橋基準地点において $1,000\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

朱太川水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	基準地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T. P. (m)	川幅 (m)
朱太川	実橋	3.4	4.43	160

T. P. : 東京湾中等潮位

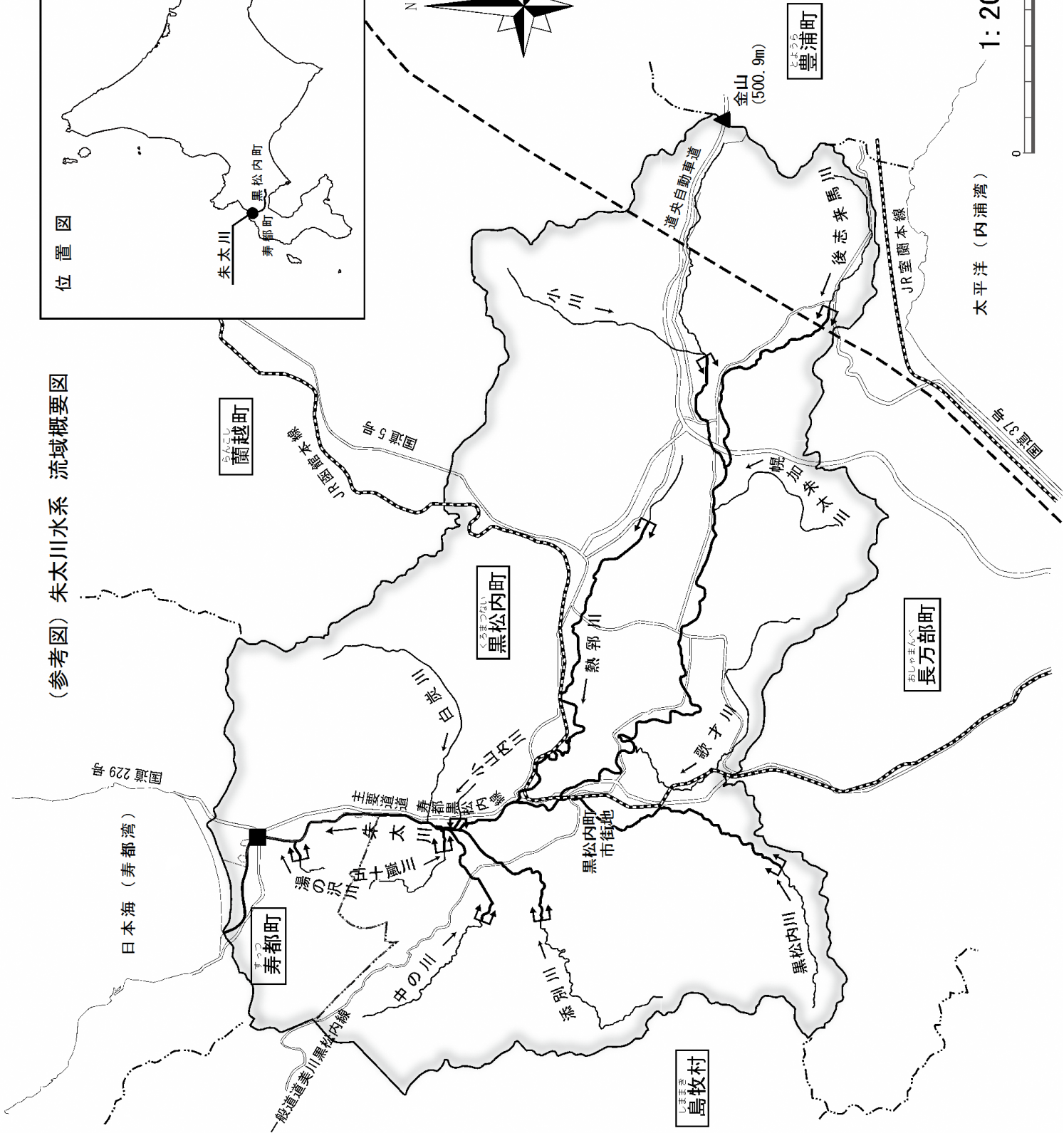
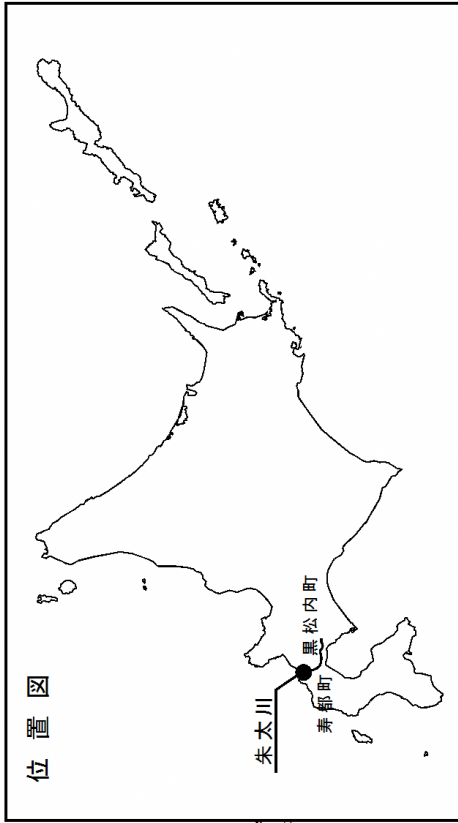
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

実橋地点における過去20年間(平成4年～平成23年)の平均低水流量は約9.7m<sup>3</sup>/s、平均濁水流量は約5.8m<sup>3</sup>/sである。

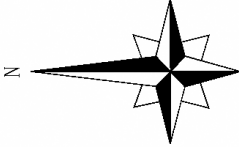
実橋地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、概ね最大6.6m<sup>3</sup>/sとする。

なお、流水の正常な機能を維持するため必要な流量には、水利流量が含まれているため、水利使用等の変更に伴い、当該水量は増減するものである。

(参考図) 朱太川水系 流域概要図



凡 例	
	流域界
	市町村界
	基準地点
	管理河川
	法区間
	主要道路
	JR
	北海道新幹線 (予定)



1: 200, 000



太平洋 (内浦湾)